

子ども用



# 伝道地便り

2022年 第3期 アメリカ支部

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 第1話 「おばあちゃんと9人のおじさんたち」 | ボリビア  |
| 第2話 「子ども伝道師」           | ボリビア  |
| 第3話 「継続は力なり」           | ウルグアイ |
| 第4話 「本物の伝道師」           | ペルー   |
| 第5話 「母を求めて」            | ブラジル  |
| 第6話 「14人の女の子への伝道」      | ブラジル  |

ADVENTIST  
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部



## 伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

# 1. おばあちゃんと9人のおじさんたち

## ボリビア



エステル 13歳

エステルの住むボリビアのエル・アルトという街は、世界で一番高いところにある都市です。エル・アルトとは、スペイン語で「高台」という意味です。彼女の街は、どのくらいの高さに位置しているのでしょうか。なんと、一番高い場所は海拔4,150メートル、つまり日本の富士山よりも高く、アメリカのオレゴン州にあるフッド山よりも高いのです。そんな高い場所にありますから、年間を通して気候は寒く、エステルはいつも暖かい帽子を被り、セーターにコートを着ています。

エステルは、歌を歌ったり、お祈りをしたり、安息日には家族と教会に行くのが大好きです。しかしコロナウィルスが彼女の町にもやってきて、沢山のことが変わってしまいました。学校も教会も閉まり、エステルと彼女の家族はズームを通しての礼拝しかできなくなりました。

エステルの最大の心配事は、彼女のおばあちゃんのことでした。彼女のおばあちゃんは、顔

に腫瘍があり、そのため目が見えなくなっていたのです。おばあちゃんを助けるためにエスターが出来ることは、何もないように思えました。お祈りしかできませんでした。毎週水曜日、エスターの教会が開くズームでの祈禱会で、彼女はおばあちゃんのために祈りました。

「天の愛する神様、どうかセシリアおばあちゃんを助けてください。あなたに心を捧げられるようにおばあちゃんを助けてください」と祈りました。

何週間か過ぎましたが、おばあちゃんの顔の腫瘍が良くなることはなく、健康状態も悪くなっていきました。エスターは祈り続けました。

「天の愛する神様、どうかセシリアおばあちゃんを助けてください。あなたに心を捧げられるようにおばあちゃんを助けてください」と、祈り続けるのです。

ある日、牧師さんがエスターの家を訪ね、おばあちゃんのために油注ぎの祈りを捧げました。そこには教会員ではない9人のエスターのおじさんたちも招かれていました。牧師は、家で特別な祈禱週を行い、皆で祈り、賛美し、聖書の学びをしましよと言いました。9人のおじさんたち全員、そしておばあちゃんも祈禱週に参加しました。週の終わりにその牧師さんが、バプテスマを受けたい人はいますか、と尋ねると、おばあちゃんは真っ先に手を上げたのです。エステルは心から喜びました。イエス様は彼女の祈りに答えてくださったのです！

その日以来、エステルは、おばあちゃんと9人のおじさんたちに大きな変化を見ることができました。彼らはもうコロナウィルスに怯えることもなく、イエス様のお陰で平安に、安心して過ごせていたのです。

Zoomの祈禱会で、エスターは今、9人のおじさんたち全員がバプテスマを受けるようにお祈りしています。また、おばあちゃんの健康のためにも祈り続けています。もしイエス様が今おばあちゃんを癒されなかったとしても、イエス様は天から来られる時、必ず癒してくださると信じています。そしてその時、イエス様はご自分の民を高く高く引き上げてくださり、世界一高い街よりも高く、世界一高い山よりももっと高い、天国へ連れて行ってくださることを、エスターは楽しみにしています。

教会は、私たちの祈りに応え、信じる人々を天の御国へ連れ帰るために再び来られるイエス様について、人々が学べる場所です。今期の皆様の13回献金により、エスターの住むエル・アルトに新しい教会が建てられます。皆様の惜しみない献金を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でボリビアのエル・アルトを見つけてみましょう。
- 子どもたちのアクティビティとして：エスターのように、愛する家族のため、またイエス様を知らないお友だちのためにお祈りをしてみましょう。
- Facebookの写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された事例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るといふ喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する。」（「霊的成長の目標」No.5）

エル・アルトにおける13回献金の伝道計画は次の項目の実例です。

「セブンスデー・アドベンチストの機関を強化し、自由、全人的な健康、イエスによる希望を守り、人々の内に神のみ姿を回復させる」

（「伝道の目標」No.4）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](http://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 宣教メモ

- アイマラ族とはボリビア、ペルー、チリのアンデス地方に2000年以上前から住む先住民族です。現在も約200万人のアイマラ族が住んでいます。アイマラの女性が既婚者か未婚者かは、帽子の被り方で見分けることができます。もし女性の帽子が一方に傾いていれば未婚、頭のとっぺんにあれば既婚ということです。



## 2. 子ども伝道師

## ボリビア



アリエル 12歳

ある安息日、礼拝のお話を聞いて、12歳のアリエルはとても考えさせられました。牧師先生は誰もが伝道の働きに参加すべきだと言うのですが、一体12歳の男の子にどんなことができるのでしょうか。

アリエルは祈り始めました。「愛する神様、何かから始めれば良いのでしょうか。あなたのために働く本物の伝道師になれるように僕を助けてください」

アリエルはイエス様についての学びに興味がありそうな人たちを探し始めました。そして探しながらも、「愛する神様、あなたのために働く本物の伝道師になれるように僕を助けてください」と祈り続けました。

祈りが応えられるのに時間はかかりませんでした。ある日、両親と姉と一緒にある家族を訪ねると、その家のアイリーンという16歳の女の子が聖書に興味があるというのです。アリエルはすぐにアイリーンに聖書研究をしようと誘いました。彼

女は、聖書研究を受けることを承諾しました。

アリエルは聖書を誰かに教えたことがなかったので、何をすれば良いか実は分かっていませんでした。聖書研究の題材を見つけて、アイリーンと一緒にそれを学び始めました。特に、最後の数回は簡単ではありませんでしたが、アリエルはたくさん祈り、アイリーンも新しい聖書の学びを毎回楽しみにしていました。そして聖書研究が終わると、アイリーンはイエス様に人生を捧げる決心をし、バプテスマを受けました。

アリエルは心から喜びました！ 神様はアリエルが神様に仕える本物の伝道師になれるように助けてくださったのです。「さてこれからどうしよう」とアリエルは考えました。そして今までと同じように祈り続けることにしたのです。「愛する神様、あなたのために働く本物の伝道師になれるように僕を助けてください」

本物の伝道師になる方法はたくさんあることに、アリエルは気がつきました。彼は毎日、安息日学校の教課研究をして神様についてより一層学びを深めました。またお小遣いを貰った時は、必ず10パーセントを什一として神様にお返しし、お小遣いの中から喜んで献金も捧げました。自分のする全てのことについて、アリエルは常に神様を第一としたいと思いました。その結果、彼は神様に仕える本物の伝道師となったのです。

アイリーンがバプテスマを受けると、今度は彼女のお父さんもイエス様に心を捧げる決心をしました。そして次にお母さんもイエス様に心を捧げました。結局、アイリーンの家族全員がイエス様に心を捧げることとなったのです。アリエルはまだ12歳でしたが、アイリーンの家族全員をイエス様に導いたのです。

伝道師になるのに若すぎるということはないとアリエルは言います。神様が私たちに天国へ連れて行ってくださるその日まで、私たち1人ひとり

が皆、伝道師となり、神様の愛を宣べ伝えるのです。

アリエルの住む街にはアドベンチスト教会がありません。安息日には、アリエルの家や他の教会員の家で集会を開いています。アリエルが伝道師になるきっかけとなった礼拝のお話を聞いたのも、教会員の家でした。いつの日か街に教会が誕生することをアリエルは夢見ています。

9月24日に予定されている今期の13回献金の一部は、アリエルの住む街の近くにあるラ・パスという街で教会を建てる資金として用いられます。アリエルや彼の友人たちが教会に集うことができるよう、そして、そこからイエス様の再臨を述べ伝えることができるよう、皆様の惜しみ無い献金を感謝いたします。

#### 豆知識

- ボリビアの伝統的な食事はマニスूपと呼ばれるピーナッツのスープで、すったピーナッツの中にマカロニと野菜が入っています。



〈お話のヒント〉

- 地図でボリビアのラ・パスを見つけましょう。
- 子どもたちへの提案：私たち1人ひとりが伝道の仕事をするのはとても大切なことです。アリエルのように「愛する神様、あなたの為に働く本物の伝道師になれるように僕を助けてください」と祈ってみましょう。
- Facebook で写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sad-2022](https://bit.ly/sad-2022).
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された事例です。  
「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るといふ喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）、「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する。」（「霊的成長の目標」No.5）
- ラ・パスとボリビアの3都市における13回献金の伝道計画は次の項目の実例です。  
「セブンスデー・アドベンチストの機関を強化し、自由、全人的な健康、イエスによる希望を守り、人々の内に神のみ姿を回復させる」（「伝道の目標」No.4）  
詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 3. 継続は力なり

### ウルグアイ



アグスティーナ

ウルグアイに住むアグスティーナは、8歳の時、近所に住む友だちのおばさんの家に一緒に行こうと友人に誘われました。「マリータおばさんが毎週金曜日の夕方に素敵な聖書のお話をしてくれるの。あなたも絶対に来て！」とその友だちは言いました。

アグスティーナがお母さんに行っても良いかと聞くと、お母さんも一緒に行くという条件なら行っても良い、ということになりました。お母さんは、マリータおばさんが一体どんなお話をするのか聞いてみたかったのです。

金曜日の夕方、アグスティーナとお母さんは、マリータおばさんの家を訪ねました。マリータおばさんは、聖書から1つのお話を読み、子どもたちと一緒にイエス様の賛美歌を歌いました。そして日が暮れるとマリータおばさんは、安息日が始まりまして、祈るのです。アグスティーナはこの集会をとて気に入り、お母さんにまた来週も来たいと頼みました。次の金曜日、アグスティーナとお母さんはまた集会に行きました。そこでまたマリータおばさん

は聖書のお話を読み、イエス様の歌を子どもたちと歌い、日が暮れると、安息日が始まりまして、と言って祈りました。その後、アグスティーナのお母さんはアグスティーナを1人で集会に行かせてくれるようになりました。

しばらくして、アグスティーナは、マリータおばさんが家から数ブロック先の小さなアドベンチスト教会に、毎週安息日に通っていることが分かりました。マリータおばさんと一緒に教会に行っても良いかとアグスティーナがお母さんに聞くと、お母さんはそれを許してくれました。

安息日はアグスティーナにとって1週間がいちばん良い日となりました。金曜日の夕方にマリータおばさんの家で聖書のお話を読み、賛美歌を歌い、祈って安息日を迎えるのが楽しみでした。そして安息日の朝には、マリータおばさんと教会に行くのが楽しみで、ベッドから飛び起きました。

教会では、アグスティーナは安息日学校のクラスが大好きになりました。特に伝道地便りのお話が好きで、その中でも世界中の子どもたちのお話が大好きでした。彼女はまだ幼いにも関わらず礼拝のお話も注意深く聞きました。説教は、安息日礼拝のプログラムの中でいちばん好きな時間でした。彼女はすぐに聖書研究を始めました。聖書を勉強すればするほど、イエス様とイエス様の愛を知ることができました。そして彼女は心をイエス様に捧げ、バプテスマを受ける決心をしました。

バプテスマの少し後、ウルグアイにアドベンチストの学校があることを知りました。アグスティーナはそこで学びたいと思いましたが、お母さんは、公立の学校は無料なので公立の方が良いと言いました。

アグスティーナは諦めませんでした。彼女は、

何ヶ月もアドベンチストの学校で学べるように祈り続けました。ちょうどその頃、世界中の教会で行われた 10 日間の祈祷週特別プログラムにアグスティーナの教会も参加しました。10 日間を終える頃、アグスティーナのお母さんが、彼女をアドベンチストの学校に通うことに同意してくれました。アグスティーナは心から喜びました！ 神様が彼女の祈りに応えてくださったのです！ 神様は学費を払うための資金までお母さんに与えてくださいました。

アグスティーナにとって、それらは、正に継続は力なりとなる経験でした。お母さんにマリータおばさんの家に行きたいと頼み続けることで、毎週金曜日に行けることになりました。そしてアドベンチストの学校に行けるよう祈り続けると、そこへ行って学ぶ道が開かれたのです。アグスティーナは心からイエス様を愛しています。「イエス様のような方が、自分の命を捨てるほどに私を愛してくださっていると知った時、本当に感動したのです！」と彼女は言います。

9月24日に予定されている今期の13回献金は、ウルグアイを含む南アメリカ支部に8つの教会を開く資金として用いられます。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウルグアイを見つけましょう。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sad-2022](https://bit.ly/sad-2022).
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された事例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）、「子ども、若者、ヤングアダルトの入

信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）、「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](http://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 豆知識

- ウルグアイでは、飲食店での塩の使用に厳しい規制があり、テーブルに置かれていないため、頼まないと出てきません。マクドナルドのフライドポテトでさえ塩で味付けされていません。



## 4. 本物の伝道師

ペルー



ディエゴ 11歳

11歳のディエゴは、両親と一緒にペルーのアレキパという街に住んでいます。このお話は、彼がどのようにして本物の伝道師になったかというお話です。

ディエゴは9歳の時に参加した夏期聖書学校で、健康的に生きることの大切さを学びました。聖書学校が終わった時、彼は全てが終わったように感じ悲しくなりましたが、それで終わりではありませんでした。聖書学校の先生が、子どもたちを教会のアドベンチャークラブに招待してくれたのです。もちろんディエゴは、毎週安息日にアドベンチャークラブに参加することにしました。時々、安息日にも学校に行かなければならない日がありましたが、学校のない日には必ず参加しました。

ディエゴは、イエス様が自分のために十字架にかかって死んでくださったと学んだ時、神様にとって自分がどんなに価値のある存在かを知りました。そして、神様が心に働きかけるのを感じ、バプテスマを受ける決心をしました。ディエゴの両親もバプテスマに賛成してくれ

るだけでなく、間もなくしてディエゴと同じようにバプテスマを受けました！ それからディエゴはどんな教会の行事も欠かすことなく参加しました。特に、アドベンチャークラブのキャンプが大好きでした。

ある時、教会の先生がディエゴと子どもたちに言いました。「イエス様の再臨の日まで、もっと神様のための働きをしなければいけないよ。まだイエス様を知らないお友だちにイエス様をお伝えし、イエス様の再臨に備えられるようにするんだ」と。そして先生は、ディエゴたちに次のようなこんな提案をしました。「それぞれ5人の友だちを選んで、1週間毎日祈りましょう。それから、教会に招待しましょう」と先生は言いました。

ディエゴは、そんなことをしたら友だちにいじめられるのではないかと恐れしました。からかわれたり、仲間はずれにされたりするかもしれません。

でもイエス様がいつも一緒に居てくださることを思い出し、1週間、5人の友達のために毎日お祈りをしました。そして週の終わりには、1人ひとりに電話をして教会に誘いました。すると、そのうちの3人が教会に来ると言ってくれたのです！ それからというもの、ディエゴはもうイエス様について語る事が怖くなくなりました。

ある日ディエゴは、イザイアという友だちを誘って、夏期聖書学校に行きました。聖書学校が終わる頃、ディエゴは「僕と一緒に聖書を読まない？」とイザイアを誘いました。するとイザイアは喜んで承諾してくれたのです。こうしてイザイアの家で週に一度、聖書を一緒に読むことになりました。

そんな日々が続いた後、ディエゴにとって本当に嬉しい出来事が起こりました。イザイアが

心をイエス様に捧げ、バプテスマを受ける決心をしたのです！ ディエゴは心から喜びました。「神様は小さな子どもである自分でも、神様の御用のためにもちいてくださり、本物の伝道師にしてくださった」と知ったからです。

今期の 13 回献金は、ディエゴの住むペルーを含む南アメリカ支部に、8つの新しい教会を開く資金として用いられます。献金は9月24日に予定されています。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でペルーのアレキパを見つけましょう。
- Facebook で写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sad-2022](https://bit.ly/sad-2022).
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された事例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）、「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）、「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

## 宣教メモ

- セブンスデー・アドベンチストのペルーでの働きは、1898年に始まりました。エスコバルという名のチリ人の宣教師が、他6人の宣教師たちと共にリマの町に住み、自給伝道師として働きを始めたのです。1911年には、ボリビアにいたフェルディナンドとアナ・シュタールがペルーのプラテリアでの働きの為にやってきました。アイマラ族に慕われた先駆者たちの経験と伝道の働きの歴史は、シュタールの著書「"In the Land of Incas" インカの地にて」に記されています。
- 1921年、シュタール家はアマゾンの人々への伝道のため、ペルー中部のチャンチャマヨ地区へ引っ越しました。
- 彼らは、ペレネ川でメトラロ・ミッション・ステーションを設立しました。オーキシリアドーラ（ヘルパー）という名の木燃焼汽船が1928年に購入され、シュタールはこの船を用いて川の上流から下流まで長期の伝道旅行をしました。1940年には、ブラジルのベレムで、より実用的なディーゼル起動のボートが造られ、L.B.ハリウェルのルゼイロ2号の双子の姉妹として、木燃焼汽船に代わって働きをすることとなりました。

## 5. 母を求めて

## ブラジル



ライ 17歳

ブラジルのブロードスキーに住むライは、お母さんが欲しいと願っていました。悲しいことに、ライがたった7歳のときにお母さんが亡くなってしまい、お父さんと2人、残されたのです。

ライはお父さんが大好きでしたが、優しくて思いやりのあるお母さんなしに、大きくて強いお父さんとたった2人で暮らすことは、小さな男の子にとってつらいこともありました。

ライは自分のことは自分でするように学ばなければなりませんでした。お父さんは歳を取っていて忙しく、ライに色々なことを教えるような時間はありませんでした。ライはお母さんからの愛や思いやりに飢えていました。

その後、お父さんがある女の人と出会い、結婚したため、ライに新しいお母さんができました。ところが悲しいことに、1年後に新しいお母さんも亡くなってしまったのです。

お母さんが欲しいという願いは叶わないように思え、彼はいつも心に悲しみを抱えていました。

ちょうどその頃、セブンスデー・アドベンチ

スト教会のパスファインダークラブのことを知り、ライはすぐ入隊しました。そして他の子どもたちとパスファインダーの活動に楽しく参加していました。イエス様のお話を聞くのも大好きでした。信頼できる新しい友だちもでき、彼は心をイエス様に捧げました。

でもライの心にはまだ傷がありました。どうしてもお母さんが欲しかったのです。

パスファインダーで時間を過ごすにつれ、彼はパスファインダークラブの責任者でミスター・アレキザンダーという大きくて強い男の人と親しくなりました。特にミスター・アレキザンダーの奥さんのミセス・クラウディアのことが大好きになり、この人をお母さんだと思うことにしようとライは決めたのです。

ミセス・クラウディアもお母さんとしての愛をライに対して感じていたため、彼を自分の息子のように受け入れました。ミスター・アレキザンダーとミセス・クラウディアには既にホアオ・ペドロとアナ・クララという2人の小さな子どもがいました。彼らもまた、ライのことを新しい兄弟として受け入れました。

ライの新しい家族は自分たちの家にライを喜んで招いてくれました。彼は長男となり、自分の部屋も、クローゼットも、洋服も与えられました。ライの夢であった矯正もしてもらい、歯並びを直すこともできました。

現在、ライは自分のお父さんと住んでいます。そしてお父さんのことが大好きです。出エジプト記 20 章 12 節にある十戒の第5条、「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。」という教えをライの新しい家族が教えてくれたのです。この教えを守り、ライはお父さんと新しい家族と交替で一緒に暮らしています。

もうだいぶ歳をとっているライのお父さんは、ライに新しい家族ができたことを喜んでいきます。お父さんは自分が与えることのできなかつた配慮を神様が新しい家族を通してライに与えてくださったと知っているのです。

ライは今も神様を心から愛しています。パスファインダーを通して神様は彼の願いを叶えてくださいました。新しいお母さんだけではなくより多くの祝福を与え、彼に新しい家族を与えてくださったのです。

今期の 13 回献金の一部は、ライの住むブロードスキーに新しい教会を開く資金として用いられます。この街のもう 1 つの地域に開かれるこの新しい教会により、パスファインダークラブも新しく立ち上げることができるので、より多くの子どもたちがイエス様について知ることができます。献金は 9 月 24 日に予定されています。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でブラジルのブロードスキーを見つけましょう。
- 写真の後部左側がライで、新しい家族と写っています。アレギザンダー、クラウディア、ホアオ・ペドロ、とアナ・クララです。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sad-2022](https://bit.ly/sad-2022).
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された実例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員 1 人 1 人が世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」

（「伝道の目標」No.1）、「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」

（「霊的成長の目標」No.5）、「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）、

「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」

（「霊的成長の目標」No.7）

ブロードスキーの教会設立のための 13 回安息日プロジェクトは、「セブンスデー・アドベンチストの機関を強化し、自由、全人的な健康、イエスによる希望を守り、人々の内に神のみ姿を回復させる」（「伝道の目標」No.4）を表しています。

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

## 6. 14人の女の子への伝道

ブラジル



エデュアルダ 15歳

ブラジルに住む11歳のエデュアルダは、小学校で聞く聖書のお話が大好きでした。イエス様のために働きたいけれども、一体どうすれば良いのか考えていました。

ちょうどその頃、彼女のお母さんが聖書研究の小グループを自宅で始めました。週に1度、セブンスデー・アドベンチストではない数人の母親たちを家に招き、一緒に聖書を読んだり、お祈りをしたりしていました。お母さんに連れられて、時々6歳と8歳の女の子たちが一緒に来るがありました。

エデュアルダは、その女の子たちのための特別なグループを作ったら良いのではないかと考え、お母さんに言いました。「お母さん、一緒に来ているあの女の子たちのために、私も聖書研究の小グループを始めてもいい？」

お母さんもその提案に大賛成でした。エデュアルダは女の子たちに話すための聖書のお話を準備して、一緒に歌える賛美歌を選び、楽しい聖書のクイズも作りました。

エデュアルダの最初の小グループには3人

の女の子が参加しました。そしてその数は増えていき、瞬く間に14人もの女の子たちがその小グループに毎週参加するようになりました。彼女たちは町の色々な場所から来ていて、お母さんたちの宗教も様々でした。彼女たちはお祈りをしたり、賛美歌を歌ったり、聖書のお話を聞いたり、聖書クイズをするのをとても楽しんでくれました。

しばらく経つと、エデュアルダは週一回だけではなく、彼女たちともっと何かできないか考え始めました。そして彼女たちに、お年寄りのいる施設を訪ねて、そこにいる人たちのために祈ろうと誘ってみました。また、病院にも行き、病気で入院している人たちを訪ねてお祈りをしました。

コロナウィルスがやってきた時、彼女たちは対面で会うことができなくなりました。オンラインでのやり取りが何ヶ月も続きました。例えばオンラインであっても、彼女たちは祈り、賛美し、聖書のお話を聞き、聖書クイズを続けました。

今、彼女たちはまた、対面で集まることができ、教会にも一緒に行くことができるようになりました。エデュアルダは彼女たちの心が変わられていくのを見ました。安息日には、数人の女の子たちが彼女と一緒に教会に行き、そのうちの1人は自分のYoutubeチャンネルを開設して、イエス様のことを伝えています。他の数人の女の子たちは、エデュアルダと同じような小グループを開く計画を立てています。彼女たちは、エデュアルダがそうしてくれたように、イエス様の愛を他の人たちに伝えたいのです。

エデュアルダの夢は、彼女たち全員が心をイエス様に捧げることです。彼女たちが彼女たちの両親や周りの人に、イエス様を、そしてイエス様の愛を伝えて欲しいと願っています。

9月24日に予定されている今期の13回献金の一部は、エデュアルダの住むブラジルに4つの新しい教会を開く資金として用いられます。この新しい教会により、より多くの子どもたちがイエス様の愛について知ることになるでしょう。皆様の惜しみない献金を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でエデュアルダの住む街、ブラジルのポルト・ベリョを見つけてみましょう。
- 現在エデュアルダは安息日に10代前半のクラスを教えています。将来は法律とジャーナリズムを学び、常に神様に仕えるために自分のタラントを生かしていきたいと思っています。
- 子どもたちに伝道師になる提案をしましょう。伝道師とは、イエス様を愛する気持ちを他の誰かと分かち合う人のことをいいます。エデュアルダのお母さんは、全てのお父さんお母さんに、子どもたちに伝道師になる訓練をさせることを強く勧めています。
- Facebookの写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq).
- 南アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sad-2022](https://bit.ly/sad-2022).
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された事例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るといふ喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）、「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）、「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」

No.6）、「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

ブラジルにおける13回献金の伝道計画は次の項目の実例です。

「セブンスデー・アドベンチストの機関を強化し、自由、全人的な健康、イエスによる希望を守り、人々の内に神のみ姿を回復させる」（「伝道の目標」No.4）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](http://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 宣教メモ

- リオデジャネイロにある購い主キリストの像の重さは635トン、台座を含めると38メートルの高さがあり、新・世界七不思議と呼ばれています。

